SONIC CITY

2023 SERIES

7:00pm, December 15th (FRI),
2023

ソニックシティ 2023 シリーズ　第九演奏会
埼玉第九合唱団第 94 回演奏会
2023年 12月 15日（金）午後 7 時開演／ソニックシティ　大ホール

第九演奏会 2023　日本フィルハーモニー交響楽団

ケルビーニ
歌劇《アナクレオン》序曲（約9分）
Luigi CHERUBINI: "Anacréon" Overture

～ 休憩（15分）～

ベートーヴェン
交響曲第9番《合唱》ニ短調 op.125（約65分）
Ludwig van BEETHOVEN: Symphony No.9 "Choral" in D-minor, op.125

指揮：**広上淳一**［フレンド・オブ・JPO（芸術顧問）］
Conductor: HIROKAMI Junichi, Friend of JPO / Artistic Advisor

ソプラノ：**竹下みず穂**　*Soprano: TAKESHITA Mizuho*
メゾ・ソプラノ：**但馬由香**　*Mezzo Soprano: TAJIMA Yuka*

テノール：**工藤和真**　*Tenor: KUDO Kazuma*
バリトン：**池内響**　*Baritone: IKEUCHI Hibiki*

合唱：**埼玉第九合唱団**
Chorus: Saitama Daiku Chorus
公式HP▶

コンサートマスター：**扇谷泰朋**［日本フィル・ソロ・コンサートマスター］
Concertmaster: OGITANI Yasutomo, JPO Solo Concertmaster

ソロ・チェロ：**門脇大樹**［日本フィル・ソロ・チェロ］
Solo Violoncello: KADOWAKI Hiroki, JPO Solo Violoncello

本日の公演はメンバーズTVUチャンネルでライブ&アーカイブ配信をしております。
1000円で3ヶ月、何度でもご視聴いただけます。

主催
公益財団法人埼玉県産業文化センター／さいたま市
公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団

後援
埼玉県／埼玉県教育委員会／さいたま市教育委員会／埼玉県吹奏楽連盟／埼玉県合唱連盟

協賛
株式会社タムロン

表紙作品提供
埼玉県立新座総合技術高等学校 デザイン専攻科　久保谷　咲苗
作品名「Overlap」
作者コメント「奏でる音色が重なり合うというようなイメージをしてデザインしました。
配色は音の喜怒哀楽の変化を表現してみました。」

【アンケートのお願い】 今後のソニックシティ主催公演の参考のため、アンケートへの協力をお願いいたします。アンケートにお答えいただきました方の中から抽選で3名様に本日の出演者・広上淳一氏、竹下みず穂氏、但馬由香氏、工藤和真氏、池内響氏のサイン色紙をお送りいたします。以下のQRより、スマートフォン・タブレットからお答えください。（所要時間約5分）

▶公演終了時、カーテンコールの写真撮影が可能になりました。撮影はスマートフォン・携帯電話のみ、自席にご着席のまま行い、動画の撮影はご遠慮ください。是非、コンサートの感動を多くの方と分かち合っていただければと存じます。（SNS等への投稿の際は、#ソニックシティの追加をお願いします）

～頌～「理想の讃頌　希望への頌歌」

コロナ禍で中断を余儀なくされていた、ベートーヴェン（1770-1827）作曲『交響曲第9番』(「第九」) の演奏会。実に4年ぶりに、復活を遂げる。と同時にその中断の理由を考えるに、器楽だけで演奏されることが殆どだった「交響曲」の、しかもクライマックスに、大規模な声楽が用いられているからに他ならない。

交響曲は元々、オペラや劇の開幕ベル替わりに上演されていた序曲から派生してきたジャンルである。もちろん「序曲」とはいっても、時代を下るごとに規模も内容も大きくなり、本日の演奏会の冒頭で取り上げられるケルビーニ（1760–1842）の『アナクレオン』序曲などは、その完成形ともいえる内容である。

なお『アナクレオン』というオペラだが、古代ギリシャの詩人アナクレオンになぞらえて、社会の無理解に晒されながらも、自らの信念や愛を貫く芸術家のあり方がテーマとなっている。実のところこうした筋書自体、いかにもベートーヴェンが好みそうなもので、実際ベートーヴェン自身ケルビーニを大変尊敬しており、音楽的にも様々な影響を受けていた。

このように、序曲そのものが確固たるスケールを具えるようになった時代の中で、ベートーヴェンは、当の序曲から派生してきた交響曲の発展にも力を注ぎ、それを西洋クラシック音楽のメインストリームに押し上げる。しかも彼のトレードマークである「闘争を経て勝利へ至る」という人生観を交響曲の芯に据え、裸一貫から身を起し未来を掴み取ろうとする市民階級の心をとらえた。

その集大成ともいえるのが、1824年に完成・初演された「第九」である。上演時間からして1時間を優に超える長さ。これはベートーヴェンが作った交響曲の中でもとりわけ巨大な構えであり、「闇から光」に 至る苦闘の道のりがこれでもかと示される。しかも交響曲の結論部分とも呼べる第4楽章で導入された声楽の歌詞には、時にその動向が危険視されたドイツの革命詩人、シラー（1759–1805）の頌歌『歓喜に寄す』の一部が用いられている。

ちなみに西洋音楽の歴史を見ると、器楽よりも声楽のほうが優位に立つという時代が長らく続いた。教会音楽やオペラをとっても、そこでの主役はあくまで声楽であり、器楽はその伴奏をおこなう役割を果たしているにすぎなかった。実のところ、そのような伝統的な上下関係をひっくり返した作曲家の代表こそ、ベートーヴェンだ。しかも彼はこの交響曲において、器楽に声楽を従わせる、という価値転換を成し遂げている。シラーと同じく、ベートーヴェンが革命の時代を生きた1人であったことがよく分かる。

そうでなくても、闘争的な第1楽章の最後に葬送行進曲風の曲想が現れる点にも、まさしく革命の時代の新たな西洋音楽の可能性を聴き取れる。しかもこの箇所を聴けば、この楽章を貫く闘いの音楽が、闘いに斃れた何者かへの追悼に収斂してゆくというメッセージに気づかされるだろう。あるいはその死の意味合いが、第4楽章に至って、声楽という「禁じ手」さえをも用いた「兄弟愛」というメッセージの中へ昇華されることも。(テキストの中で歌われる「至福の園」とは、ギリシア神話で死せる英雄たちの魂が行き着く楽園＝エリージウムの意である。)

あるいは、狂騒的なリズムの中にティンパニが不気味な警告音を発する第2楽章も、天国的な長さと美しさが特徴の第3楽章も、すべては第4楽章の世界への前触れだったということになる。じっさい、第4楽章の骨格を成すあまりにも有名な「歓喜の歌」のメロディは、第1楽章の第2主題をはじめ、第2楽章の中間部、そして第3楽章にも断片的に現れていたもの。それが第4楽章で、器楽合奏の盛り上がりを通じて姿を現した後、それをもさらに乗り越えて、器楽と声楽の混然一体とした響きの中に昇華されてゆく。

オペラや劇の序曲から始まった「交響曲」は、こうしてベートーヴェン自身の革命的な創意工夫を経て、ついには人類の理想を訴え、希望を寿ぐ一大ジャンルと化したのである。

曲目解説：小宮正安

©Masaaki Tomitori

指　揮：広上 淳一

東京生まれ。尾高惇忠にピアノと作曲を師事、音楽、音楽をすることを学ぶ。東京音楽大学指揮科卒業。26歳で第1回キリル・コンドラシン国際青年指揮者コンクールに優勝。以来、フランス国立管、ベルリン放響、コンセルトヘボウ管、モントリオール響、イスラエル・フィル、ロンドン響、ウィーン響などメジャー・オーケストラへの客演を展開。これまでノールショピング響、リンブルク響、ロイヤル・リヴァプール・フィル、コロンバス響のポストを歴任。近年では、ヴァンクーヴァー響、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、ミラノ・ヴェルディ響、サンクトペテルブルク・フィル、バルセロナ響、モンテカルロ・フィル等へ客演。国内では全国各地のオーケストラはもとより、サイトウ・キネン・オーケストラ、水戸室内管にもたびたび招かれ絶賛を博している。2008年より14年間にわたって京都市交響楽団常任指揮者を務め、輝かしい時代を築いた。15年には同団と共にサントリー音楽賞を受賞現在、オーケストラ・アンサンブル金沢アーティスティック・リーダー、日本フィルハーモニー交響楽団フレンド・オブ・JPO(芸術顧問)、札幌交響楽団友情指揮者、京都市交響楽団広上淳一。また、東京音大指揮科教授として教育活動にも情熱を注いでいる。

ソプラノ：竹下みず穂

そのみずみずしい歌声と傑出した表現力は各方面で 観客を魅了し高い評価を得ている。お茶の水女子大学卒業、同大学院修了。アメリカのマネス音楽院にてアーティスト・ディプロマを取得。ニューヨークを拠点とし、アメリカ各地で数多くのオペラやコンサートに出演。ニューヨーク・タイムズ紙では、「流れるように美しいコロラトゥーラ」と絶賛された。2018年にはワシントンDCにてオペラ『ランメルモールのルチア』でタイトルロールを歌い大成功を収めた。日本では、NHK交響楽団や東京都交響楽団との共演や世界的指揮者パーヴォ・ヤルヴィ氏や大野和士氏らとの公演も重ねている。また、各地でソロ・リサイタルやオーケストラ公演に出演するなど、日本での活動の場を広げている。

©Yoshinobu Fukaya

メゾ・ソプラノ：但馬 由香

武蔵野音楽大学卒業、同大学大学院修了。第31回飯塚新人音楽コンクール第1位。藤原歌劇団において《ラ・チェネレントラ》のティーズベでデビュー以降、《どろぼうかささぎ》ピッポ、《ノルマ》クロティルデ等で出演。2018 年《ラ・チェネレントラ》にて初のタイトルロール、21年・22年・23年《蝶々夫人》スズキ、22年《イル・カンピエッロ》のオルソラで出演。新国立劇場には20年《夏の夜の夢》ハーミア、21年《蝶々夫人》のスズキ等で出演し高い評価を得る。24年1月28日、藤原歌劇団《ファウスト》ジーベルにて出演予定。藤原歌劇団団員。

©FUKAYA／auraY2

テノール：工藤 和真

東京藝術大学卒業。同大学院修了。声楽を小原一穂、佐々木朋也、市原多朗の各氏に師事。

第84回日本音楽コンクール声楽部門第2位、第53回日伊声楽コンコルソ第1位及び歌曲賞(岡部多喜子・嶺貞子賞)、第17回東京音楽コンクール声楽部門第2位(最高位)及び聴衆賞、2023年には第2回ジュディッタ・パスタ記念熊本復興国際オペラコンクール第１位など受賞多数。オペラではNISSAY OPERA《トスカ》カヴァラドッシ、《カプレーティとモンテッキ》テバルド、藤沢市民オペラ《ナブッコ》イズマエーレ、新国立劇場《ボリス・ゴドゥノフ》グリゴリーなどで出演。2024年2月には東京芸術劇場コンサートオペラ オッフェンバック『美しきエレーヌ』パリスで出演予定。

©T.Tairadate

バリトン：池内 響

東京藝術大学大学院オペラ科修了。第25回宝塚ベガ音楽コンクール第1位及び会場審査員特別賞、第25回松方ホール音楽賞、第20回東京音楽コンクール声楽部門第1位及び聴衆賞、第56回ヴェルディの声国際コンクール入選(伊)、第10回サルヴァトーレ・リチートラ声楽コンクール優勝(伊)等、国内外で多数の受賞歴を持つ。第37回姫路市芸術文化奨励賞、第25回坂井時忠音楽賞、2020年兵庫県芸術奨励賞を受賞。

ヘンデル《メサイア》、ベートーヴェン《第九》、フォーレ《レクイエム》等のソリストを務めるほか、オペラではNISSAY OPERA2015《ドン・ジョヴァンニ》タイトルロールをはじめ、2021《ラ・ボエーム》マルチェッロ、宮崎国際音楽祭『仮面舞踏会』レナート等で出演。

合唱指揮：田尻　桂

桐朋学園大学音楽学部演奏学科ピアノ専攻卒。ピアノを父より手ほどきを受け、その後結城八千代、故伊達純、田近完の各氏に、指揮を故高階正光氏に師事。1984年から埼玉第九合唱団のピアニストとなり、絶大な信頼を得る。1991年第36回定期演奏会では新星日響とモーツァルトのピアノ協奏曲、1996年第46回定期演奏会では東京ニューシティ管弦楽団とシューマンのピアノ協奏曲と、それぞれの演奏のソロ・ピアニストも務めた。2004年から正指揮者となり、夏の定期演奏会では東京交響楽団や東京ニューシティ管弦楽団(現パシフィックフィルハーモニア東京)との共演により、『モーツァルト／レクイエム、ハ短調ミサ』『バッハ／ロ短調ミサ』『ブラームス／ドイツレクイエム』『メンデルスゾーン／交響曲第2番"讃歌"』『ドヴォルザーク／スターバト・マーテル』等のオーケストラ付き合唱曲の大作の数々を指揮し、また冬は日本フィルハーモニー交響楽団の"第九"埼玉公演において著名指揮者との共演を合唱指揮者として支えてきている。

埼玉第九合唱団

埼玉第九合唱団は1973年に埼玉県民の手でベートーベンの「第九」を演奏することを目的に結成された。夏には合唱団主催によるバロックから現代までの様々な合唱曲に取り組み、年末にはオーケストラとの共催で「第九」の演奏を行い今年で48回目を迎えた。団員は現在130名以上を擁し、県内最大級のアマチュア混成合唱団として各種音楽祭やイベントにも参加している。2020年2月からコロナ禍により練習を休止し、2022年5月に2年3ヵ月ぶりに練習を再開。本年6月に創立50周年記念演奏会を開催し、ベートーベン作曲「ミサ曲ハ長調」を演奏し、好評を得た。埼玉の地で「第九」を100年歌い続けることを目標に、今後もますます地域に密着した活動が期待されている。

来年の演奏会の予定

ソニックシティ 2024 シリーズ 第九演奏会
埼玉第九合唱団第 95 回演奏会
2024 年 12 月 13 日(金) 午後

会　場　ソニックシティ大ホール
曲　目　L.v. ベートーベン作曲交響曲第9番「合唱」他
指　揮　下野竜也
管弦楽　日本フィルハーモニー交響楽団

団員名簿（パート別・50音順）

■ソプラノ

新井　敦子　池田　純子　伊藤　真里　伊原善理子　鵜沼美津子　宇野　聖子　大嶋佐知子　大友裕美子
大波登美子　笠原佐枝子　蚊野　千枝　神田　啓子　北川　玲子　後藤　弘子　小林　千歳　小林　文子
今田美代子　近内満知子　斉木　洋子　佐藤　高子　佐藤真知子　佐藤　恭代　佐野由起子　下　公子
鈴木　和子　鈴木　典絵　鈴木　佳子　須藤　知　瀬尾　泉　高橋眞理子　高山　妙子　滝上　明子
田熊　裕子　寺内恵美子　遠山とく子　富田麻紀子　中村　宇子　萩原美由紀　林　昌枝　原田富美枝
原山　知美　深澤　恵　藤波　香織　松倉　敬子　三浦　繁子　宮代　智子　村山ふき代　森部　陽子
吉田万利子　吉富ゆかり　吉永　裕子

■アルト

青木　優希　秋山　栄子　綾田千栄子　新井　文子　安斎　葉子　安藤　景子　石井奈津子　石川　久代
江田　直美　大井　睦　大久保久美子　小笠原記公子　小野寺鈴江　上山　桃奈　亀田　光子　川鍋加代子
木ノ内智賀子　木村千恵子　草谷智意子　小池　要子　幸田　明子　斉藤　智子　斉藤みちよ　斉藤　洋子
佐々木由美子　笹原　浩美　佐藤　和子　佐藤むつみ　渋谷智恵美　島袋津久志　菅原　美帆　平良　温子
田尻　美香　田保　京子　田部井絵理　築紫マエ子　都丸美利雅　中島　琴音　中野　みほ　中村　瑞惠
西川久美子　野沢　道子　濵田　一美　堀内紀伊子　前島　清江　松井　克恵　松崎　淳子　宮崎　和子
村瀬はるみ　守友　康子　八木橋弘子　安井　和子　山田　則子　山本　敦子　吉野　晶子　吉野　礼子
吉見　順子　和田　順子

■テノール

赤池　永成　浅子　元　新井　孝治　石川　正　伊田　明弘　今村　正道　大塚　勝彦　小倉　謙治
押田　秀人　笠井　敏和　小泉　修　斉藤　正人　白木　正伸　新祖　章　高橋　浩　滝沢　亨次
谷口　陽介　中礼　和人　林　昭宏　古川　千春　前田　拡志　槙島　茂　松尾　守展　三村　隆男
門真　宏治　山川　進　若林　祥文　渡邉　渾

■バ　ス

池田　敏也　梅山　博之　遠藤　哲朗　小笠原　悟　川波　昭文　岸本　保夫　草谷　六雄　古賀　宣文
佐藤　竑　下山　修　鈴木　信彦　大門　力　高木　正己　滝上　秀人　塚越　道彦　塚田　啓一
中村　壽宏　西川　裕二　平川　直弘　深澤　渡　百崎　直也　矢内　洋　山﨑　徹

■指導者

常任指揮者／田尻 桂　　指揮者／浅子 元　　ピアニスト／鈴木 結花　　ヴォイス・トレーナー／原田 圭、城守 香

日本フィルハーモニー交響楽団
カーチュン・ウォン 2024 年 1 月演奏会

■ 第 394 回横浜定期演奏会
2024 年 1 月 20 日（土）17：00
横浜みなとみらいホール

■ 第 403 回名曲コンサート
2024 年 1 月 21 日（日）14：00
サントリーホール

ピアノ：上原彩子
伊福部昭：舞踊曲《サロメ》より
「7 つのヴェールの踊り」
ラフマニノフ：パガニーニの主題による狂詩曲
ベルリオーズ：幻想交響曲

S¥8,000 A¥6,500 B¥6,000 C¥5,000 P¥4,000（1/20 完売）
Gs ¥4,000（65 歳以上：1/21 のみ）
Ys（25 歳以下）¥1,500

■ 第 757 回東京定期演奏会
2024 年 1 月 26 日（金）19：00
27 日（土）14：00
サントリーホール

ピアノ：児玉麻里*
ピアノ：児玉桃*

チナリー・ウン：グランド・スパイラル
コリン・マクフィー：タブー・タブーアン*
プーランク：2 台のピアノのための協奏曲*
ドビュッシー：交響詩《海》

S¥8,000　A¥6,500　B¥6,000　C 完売　P¥4,000
Ys（25 歳以下）¥1,500

＊＊

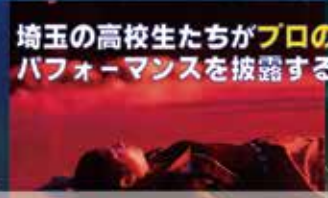
お問い合わせ　日本フィル・サービスセンター　TEL：03-5378-5911（平日 10 時 -17 時）
お申込み　　e チケット♪　https://eticket.japanphil.or.jp

クラウドファンディングやります

ソニックダンスステージ2024

2024.1.20(土)＠ソニックシティ大ホール

埼玉の高校生たちがプロの生演奏・照明でパフォーマンスを披露するダンスイベント



オリジナルタオル

オリジナルエコバッグ

リターン　5000円コース

Sonic Dance Stage

招待席　ステッカー

Sonic Dance Stage

①　タオル

Sonic Dance Stage

招待席　ステッカー

②　エコバッグ

詳細は【ご支援窓口】をご確認ください

高校生たちに、まるでコンサートのような
ステージで踊ってほしい！
みなさまのご支援・応援をよろしくお願いいたします！

【ご支援窓口】

Sonic Dance Stage

世界が認めた光学技術

タムロンは、あらゆる分野の光学製品を開発・製造する総合光学機器メーカーです。
その中でも、ミラーレスカメラ／デジタル一眼レフカメラ用交換レンズは、独創的な仕様、優れた描写力、画期的なコンパクト設計、操作性の良いデザインにより、世界中で高く評価されています。
私たちはこれからも、独自の先端光学技術により、さまざまな事業分野における製品を通じて、社会の感動と安心を創造してまいります。

主な取扱い製品

ミラーレスカメラ用交換レンズ、一眼レフカメラ用交換レンズ、監視カメラ用レンズ、FA/マシンビジョン用レンズ、TV会議用レンズ、カメラモジュール、車載用レンズ、コンパクトデジタルカメラ用レンズ、ビデオカメラ用レンズ、ドローン用レンズ、医療用レンズ　他

株式会社タムロン
〒337-8556 埼玉県さいたま市見沼区蓮沼1385番地
https://www.tamron.com/jp/

TAMRON
Focus on the Future